

# 学力向上推進計画

糸満市立真壁小学校

## 1 目標

児童一人一人が学ぶ力を身につけ「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む

## 2 基本方針

- (1) 県の「学校教育における指導の努力点」として掲げている「確かな学力」の向上を踏まえ、「わかる授業」の構築による「確かな学力」の向上に焦点をあてた取組を推進する。
- (2) 沖縄県「学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ～学びの質を高める授業改善・学校改善～」に基づき、本校の特色を生かした学力向上推進計画を立てる。
- (3) 学力向上マネジメントによる「目標管理型評価システム」を構築し、学力向上に係る学校課題の解決を図る取組を推進する。
- (4) 学力向上の総括目標・推進目標の達成に向けて、児童の実態を十分把握した上で具体的な取組を推進する。
- (5) 児童一人一人の「確かな学力」の向上を図るため、日常的な共通実践事項を一層充実させるとともに、校内研修を中心とした教師の指導力の向上・授業改善の取組を推進する。
- (6) こ小中との連携を通して地域教育資源を活用した授業の工夫改善に取り組む。

## 3 取組構想

**総括目標** : 児童の学力を全国水準に高め、維持する。  
**推進期間** : 令和3年度～令和4年度  
※県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ参考



**成果指標**：全国学力・学習状況調査を指標とし検証する。  
 ○小学校全教科目において全国平均正答率以上の維持  
 ○平均正答率30%未満の児童の割合及び無解答率の減少  
 ○児童生徒質問紙における学習意欲等に関連する項目の数値の向上  
 ○学校質問紙の「授業における基本事項」等に関連する事項の数値の向上



<p><b>【実態】</b>                  R3年度学びの確かめ6月、11月のテスト結果から国語：3・4年、算数：3・4年で県、市平均を下回る。全国学力調査では算数に落ち込みがあった。</p>	<p><b>推進目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① R4年度全国学力・学習状況調査において県との差を前年度より縮める。</li> <li>② R4年度県学力到達度調査において県平均を上回る。</li> <li>③ 諸調査において、正答率30%未満と、無解答率を前年度より減少させる。</li> </ol>	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●算数の基礎的・基本的事項(四則計算)の定着が不十分な児童が多い。</li> <li>●国語の読解力と読み取ったことをまとめて表現する力(条件付きで書くこと)に課題がある。</li> <li>●算数の活用問題に課題がある。</li> </ul>
--	--	--

学びの質を高める授業改善 「3つの視点」と「5つの方策」		
視点1 自己肯定感の高まり	視点2 学び・育ちの実感	視点3 組織的な関わり
児童の良い点や可能性、進歩の状況などを適切に把握してフィードバックするなど指導に生かす評価を効果的に取り入れる。	教師が教材研究と児童理解を深め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、一人一人の学習状況を丁寧に見取りながら指導に生かす。	校内研究や教科会、学年会等において、何をどのように見取り、どのように評価するか、その結果を児童への支援にどうつなげていくのかを職員間で深め、共有する。
方策1 日常化する (質的授業改善)	方策2 そろえる (組織的共通実践)	方策3 支える (発達の支援)
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け方策1で日々の質的授業改善の取組を日常化する。	アセスメントによる実態認識・課題認識をそろえる。	支持的風土のある学校・学級経営を通して発達の支援を充実させる。
方策4 見通す (学校組織マネジメント)	方策5 つなぐ (学校連携・地域連携)	
学校組織マネジメントの機能を高め、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。	「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校連携・地域連携を推進する。	

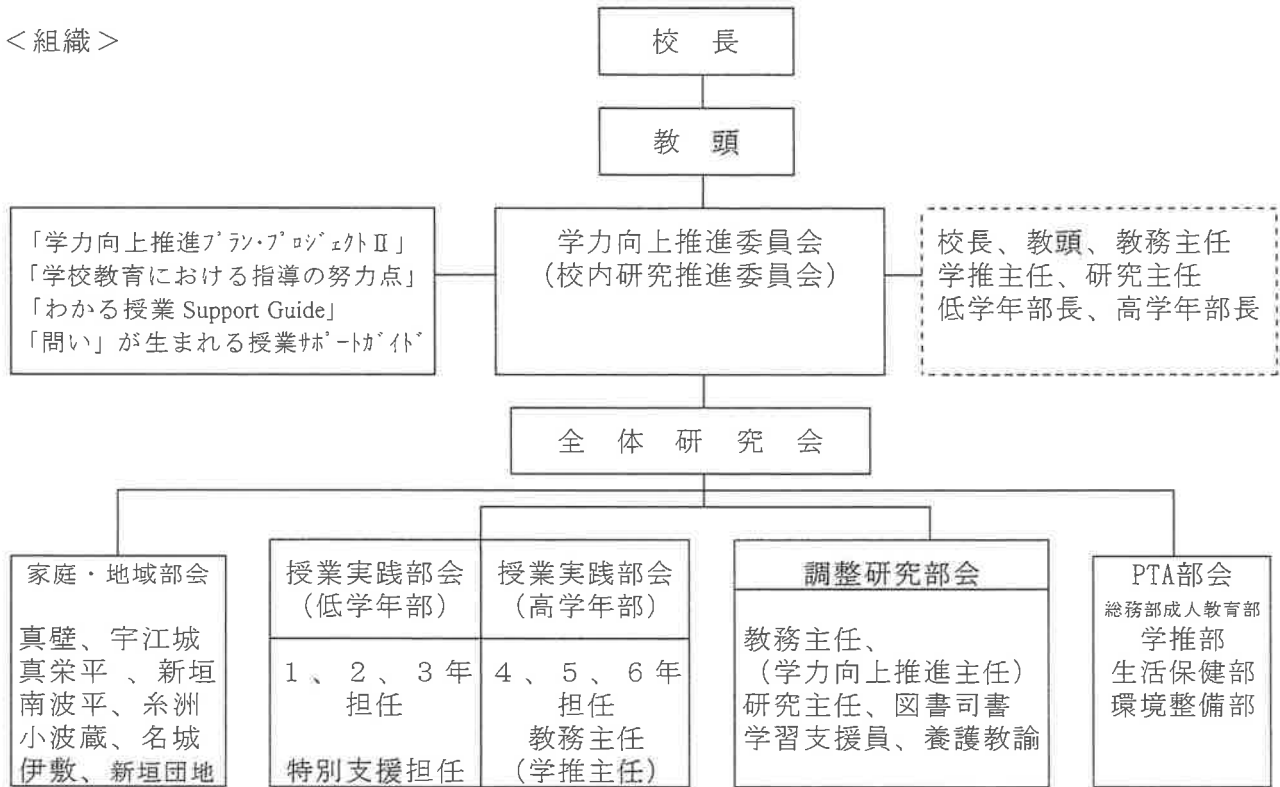
※学びの質を高める授業改善「3つの視点」と「5つの方策」については、今後県から示される『県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ』の方策をもとに修正を加えていく。

#### 4 推進の視点

学力向上推進にあたって学校は、主体性を生かした『学力向上推進5か年プロジェクト計画』を立て、学校や地域の課題に対応した具体的・日常的・実効性のある取組となるよう、学校・家庭・地域が相互に連携し実践する。

#### 5 推進体制

<組織>



<役割>

	主な活動内容	構成員
学力向上推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上推進計画の立案、推進にあたる。</li> <li>全体研究会の計画、記録、各部会への連絡調整を行う。</li> <li>実践報告書の原案作成及び各学年部のまとめを行う。</li> <li>GIGAスクール導入でタブレットの有効活用を図る。</li> </ul>	教頭、教務主任 学推主任 研究主任 低、高学年部長
全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上推進計画の決定、実践についての共通確認を行う。</li> <li>具体的実践上の諸問題について協議し共通理解をする。</li> <li>実践後の成果や課題、報告について協議・決定する。</li> </ul>	全職員
授業実践部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上推進の具体的な実践計画と評価計画を立てる。</li> <li>日常的な具体的実践に取り組む。</li> <li>実践を通しての評価を行い、反省をもとに取組を改善する。</li> <li>実践資料(文書・写真)を整理、保存、報告のまとめをする。</li> </ul>	低学年部 高学年部 教務主任 特別支援担任
調査研究部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の収集、整理を行う。</li> <li>アンケートの作成、集計、分析を行う。</li> <li>県 Web テストの結果入力</li> </ul>	教務主任 学推主任 学習支援員
家庭・地域部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>各字単位での学事奨励会の実施。家庭学習強化月間の取組。</li> </ul>	各字、各家庭
PTA部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>P 学力向上推進部を中心とした、学力向上の取組。(校内童話・お話大会の運営、漢字、算数検定の実施等)</li> </ul>	PTA 役員

## 6 学力向上推進年間指導サイクル

4月	<p>【学習規律強化月間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そろえる実践の確認・・・(学推主任)</li> </ul> <p>○学力向上推進計画の確認・・・(学推主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・春休みの宿題点検 ・既習事項の定着の確認と強化</li> </ul> <p>○全国学調の対策〔授業〕・・・TT指導(教務主任、学習支援員等) 〔補習〕・・・計画(学推主任)、支援(全職員)</p>
5月	<p>☆全国学力・学習状況調査(6年生)4/19(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自校採点及び入力(学推主任、フリー職員、6年担任)</li> <li>・成果と課題の把握、課題解決に向けた取組計画</li> </ul> <p>☆標準学力検査(3年生)4/19(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準学力検査実施後の分析、考察・・・(3年担任、低学年部)</li> </ul> <p>○家庭学習計画表の実施(1回目)</p> <p>○「主体的に学び合い自分の考えを表現できる児童の育成」の校内研・・・理論研(研究主任)</p>
6～7月	<p>☆学力定着状況調査「学びのたしかめ」6月(4～5年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの確かめ結果分析、活用</li> </ul> <p>○全国学調の分析・・・(学推主任、6年担任、高学年部)</p> <p>※一人1授業</p>
夏期休業 (8月)	<p>○夏休み宿題の提供・・・(学級担任)</p> <p>○「 」の校内研・・・校内研実施計画の作成(研究主任)</p> <p>□全国学力・学習調査の結果・・・(文科省公表)</p>
9月	<p>【学習“やる気”アップ月間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律の徹底 ・夏休みの宿題点検 ・既習事項の定着の確認と強化</li> </ul> <p>○全職員体制補習計画(10月～1月)の作成・・・(学推主任)</p>
10月	<p>【市学力向上強化月間】</p> <p>○家庭学習計画表の実施(2回目)</p> <p>○全国学調結果の活用⇒成果と課題の把握、課題解決に向けた取組</p> <p>○放課後補習の実施・・・(全職員)</p>
12月	<p>○全職員体制補習計画(1月～3月)の作成、確認・・・(学推主任)</p> <p>※一人1授業</p>
冬季休業	<p>○冬休みの宿題の提供・・・(学級担任)</p> <p>○3学期補習で使用する課題の作成・・・(学級担任、学推主任)</p>
1月	<p>次年度の『学力向上推進年間サイクル』スタート</p> <p>【学力向上ステップアップ月間(1月～3月)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律の徹底 ・冬休みの宿題の点検 ・既習事項の定着と強化</li> </ul> <p>○県到達度調査の対策〔授業&amp;補習〕・・・(全職員)</p>
2月	<p>☆県到達度調査(5・6年生)2/14(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自校採点及び入力(学推主任、フリー職員、各学級担任)</li> <li>・県到達度調査の結果分析、考察、対応策・・・(学推主任)</li> </ul>
3月	<p>○学推一年間の取組のまとめ及び次年度へのつなぎ・・・(学推主任)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科年間指導計画の見直し(指導の重点事項、授業改善のポイント等)</li> <li>・次年度学力推進計画の作成・・・(学推主任)</li> </ul>
春期休業	<p>○春休みの宿題の提供・・・(学級担任)</p> <p>○補習計画(4月 新6年生対象)の作成・・・(学推主任) ・次年度の準備</p>

## 7 学力向上推進のイメージ図

児童一人一人が学ぶ力を身につけ「確かな学力」を向上させ、「生きる力」を育む



### 【学習を支える力の育成】

- 学習規律の徹底
- 規範意識・マナーの向上
- 読書活動の充実
- 授業と連動した家庭学習
- 基本的な生活習慣の確立
- 地域資源の活用
- 自己肯定感・自己有用感
- 支持的風土づくり

### 【本校の課題】

●基礎・基本の定着

●活用する力

●主体的に学ぶ力  
(学習意欲)

土台

方 策	【視点1】 自己肯定感の高まり	【視点2】 学び・育ちの実感	【視点3】 組織的な関わり	【改善ツール等】 □紙質・改訂ツール 最新ツール ○事業・取組等
方策1 日常化する 【質的授業改善】	<input type="checkbox"/> 児童生徒が学んだことの意義や価値を実感し、自己肯定感を高める個人内評価等の取組を日常化する <input type="checkbox"/> 生徒指導の3つのポイントを生かした授業を日常化する <input type="checkbox"/> 資質・能力を育むために、単元を見通した授業改善を日常化する			<b>【授業デザイン】</b> <input type="checkbox"/> 「問い」サポ <input type="checkbox"/> 授業における基本事項 <input type="checkbox"/> 授業デザインMAP <input type="checkbox"/> 授業プランシート <input type="checkbox"/> 単元プランシート
方策2 そろえる 【組織的共通実践】	<input type="checkbox"/> 見取る視点・観点をそろえる <input type="checkbox"/> 学習の基盤となる資質・能力の育成			<b>【共通実践項目の設定等】</b> <input type="checkbox"/> アセスメント調査・分析資料等 <input type="checkbox"/> 共通実践項目
方策3 支える 【発達の支援】	<input type="checkbox"/> 確かな児童生徒理解 <input type="checkbox"/> 支持的な風土をつくる学級経営の充実(ガイダンスとカウンセリング) <input type="checkbox"/> 学びに向かう集団づくり			<b>【発達支援】</b> <input type="checkbox"/> キャリアパスポート <input type="checkbox"/> 不登校児童生徒への支援の手引 <input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインの考え方を生かした支援
方策4 見通す 【学校組織マネジメント】	<input type="checkbox"/> 学校課題解決に向けた組織マネジメント機能を高める <input type="checkbox"/> 学校評価と関連付けたカリキュラム・マネジメント及び年間サイクルの確立 <input type="checkbox"/> 授業改善・学校改善に向けた校内研究体制の充実			<b>【学校デザイン】</b> <input type="checkbox"/> 学校デザインシート(構想図) <input type="checkbox"/> 学校改善ルーブリック <input type="checkbox"/> フォーカスシート(焦点化) <input type="checkbox"/> 年間マネジメントサイクル※
方策5 つなぐ 【学校連携・地域連携】	<input type="checkbox"/> 市町村の特色を生かした施策推進による学校づくり <input type="checkbox"/> キャリア教育の視点を踏まえた校種間の連携強化 <input type="checkbox"/> 学校・地域・家庭の互恵的関係の構築			<b>【連携の枠組み・制度活用】</b> <input type="checkbox"/> 学校運営協議会制度 <input type="checkbox"/> 地域学校協働本部事業 <input type="checkbox"/> 小中一貫・連携教育の推進 <input type="checkbox"/> キャリア教育の推進 <input type="checkbox"/> SDGs・ESDの推進

### カリキュラム・マネジメント

図に示されている授業改善、家庭連携、日常活動、学習を支える力の育成における項目は、『県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ』具体的な取組である。(別紙参照)

方策1

**日常化する（質的授業改善）**

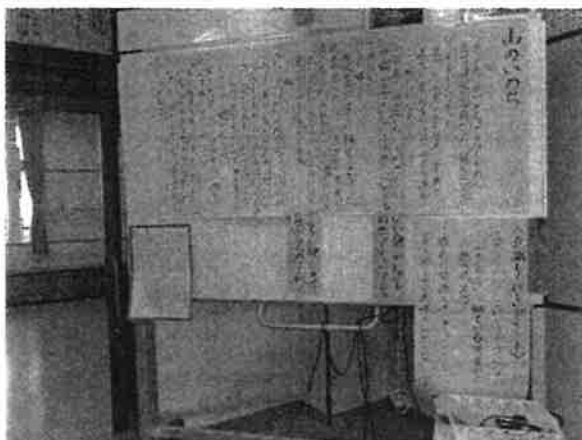
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け 方策1で日々の質的授業改善の取組を日常化する2 学びの質を高める「5つの方策」

※「質的授業改善」とは「学びの質を高める授業改善」の意

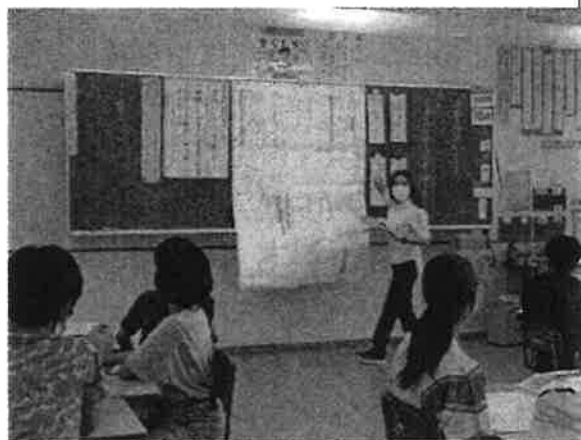
めざす授業像：○他者と関わりながら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業

めざす子供の姿：○主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ  
○他者との交流を通し、「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める  
○学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ

(1) 授業実践例



これまでの経験から「問い」を出す。



めあてを確認する。



グループで話し合う。



実践してみる。

(2) 教師の支援(例)

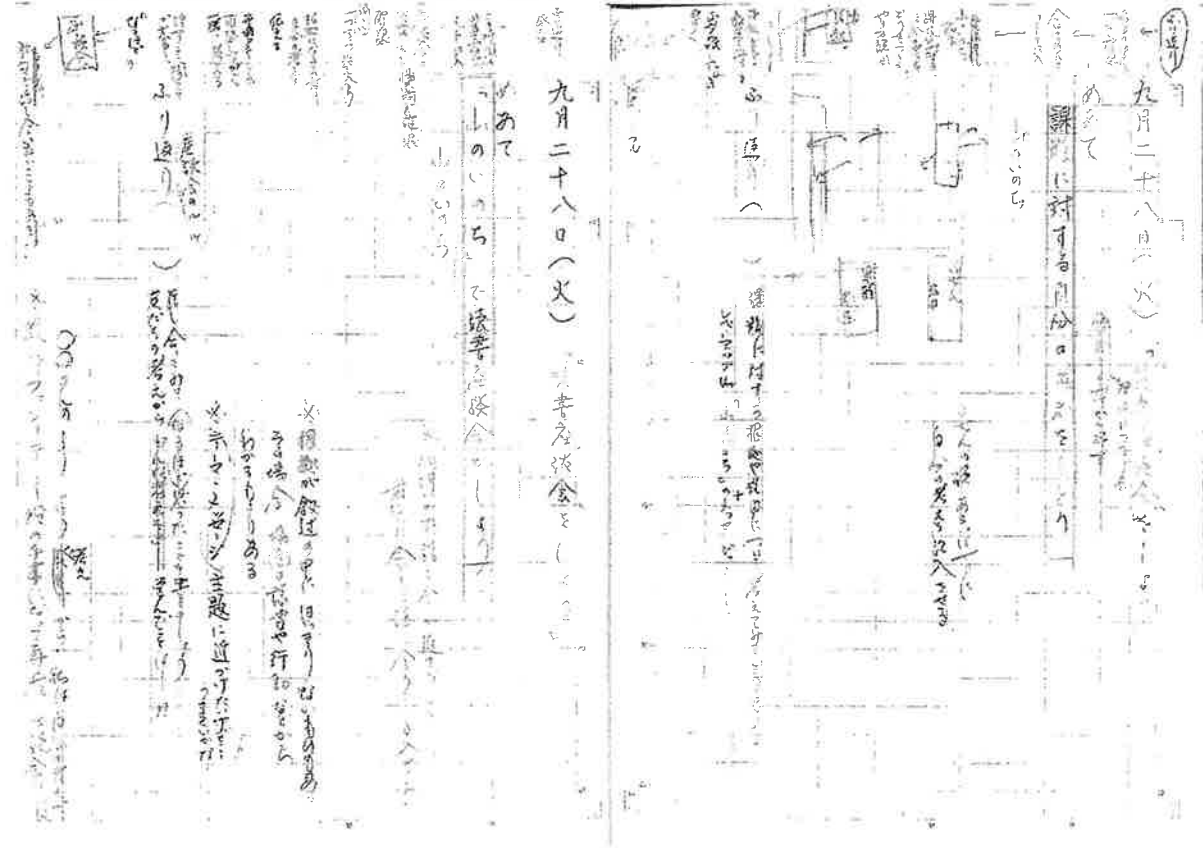
- ・ 児童の「問い」を引き出す課題の提示
- ・ 児童の「問い」を生かした「めあて（目標）」の設定
- ・ 見通しをもち、めざすゴール（評価規準）をイメージさせる工夫
- ・ 既習の知識・技能を活用する場面の設定
- ・ 比較、分類、類推などの深い学びにつなげる発問の工夫
- ・ 他者との交流を通して、自分の考えを吟味し、深い学びにつなげる場面の設定
- ・ 学びの過程を振り返り、新たな「問い」を持たせる工夫
- ・ 言語活動に応じた学習形態の工夫など
- ・ ICT支援員の活用による情報教育の充実を図る。（電子黒板、PC室等）
- ・ 学習支援員の活用による授業改善及び、きめ細かな指導
- ・ 特別支援員の活用による児童一人ひとりへの適切な支援

授業実践の項目  
・  
内容

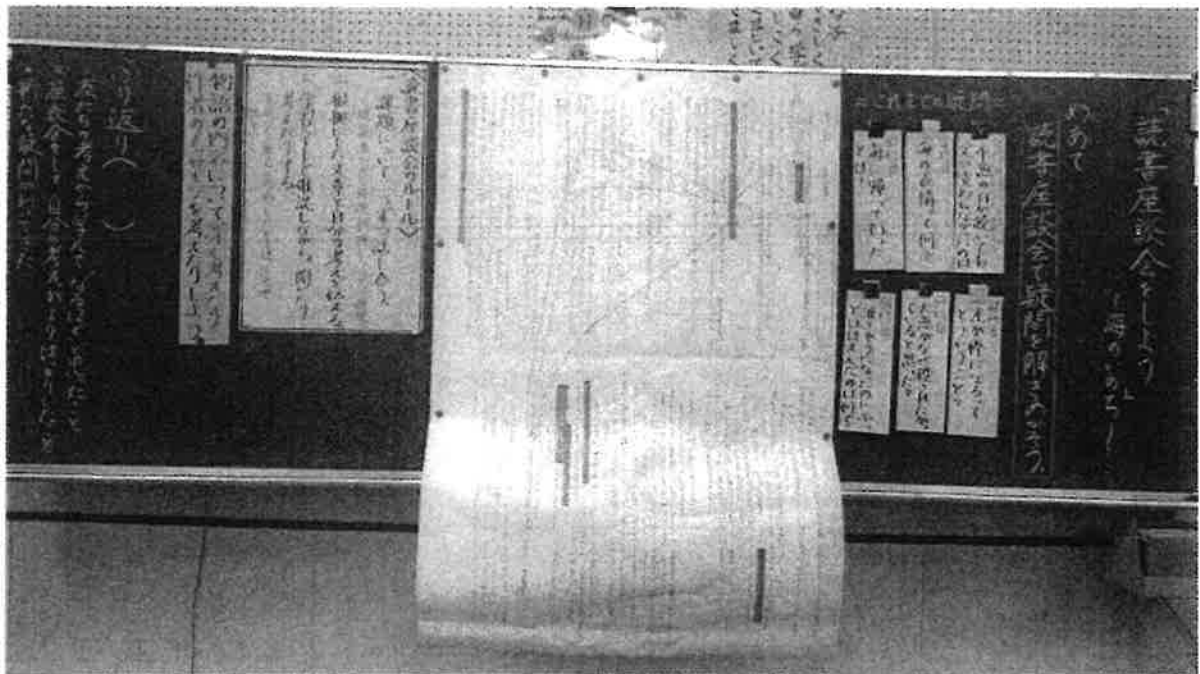
### そろえる（組織的共通実践）

アセスメントによる実態認識・課題認識をそろえる。

- (1) 組織的共通実践
  - ☆教材研究ノートの作成（構造的な板書計画等）

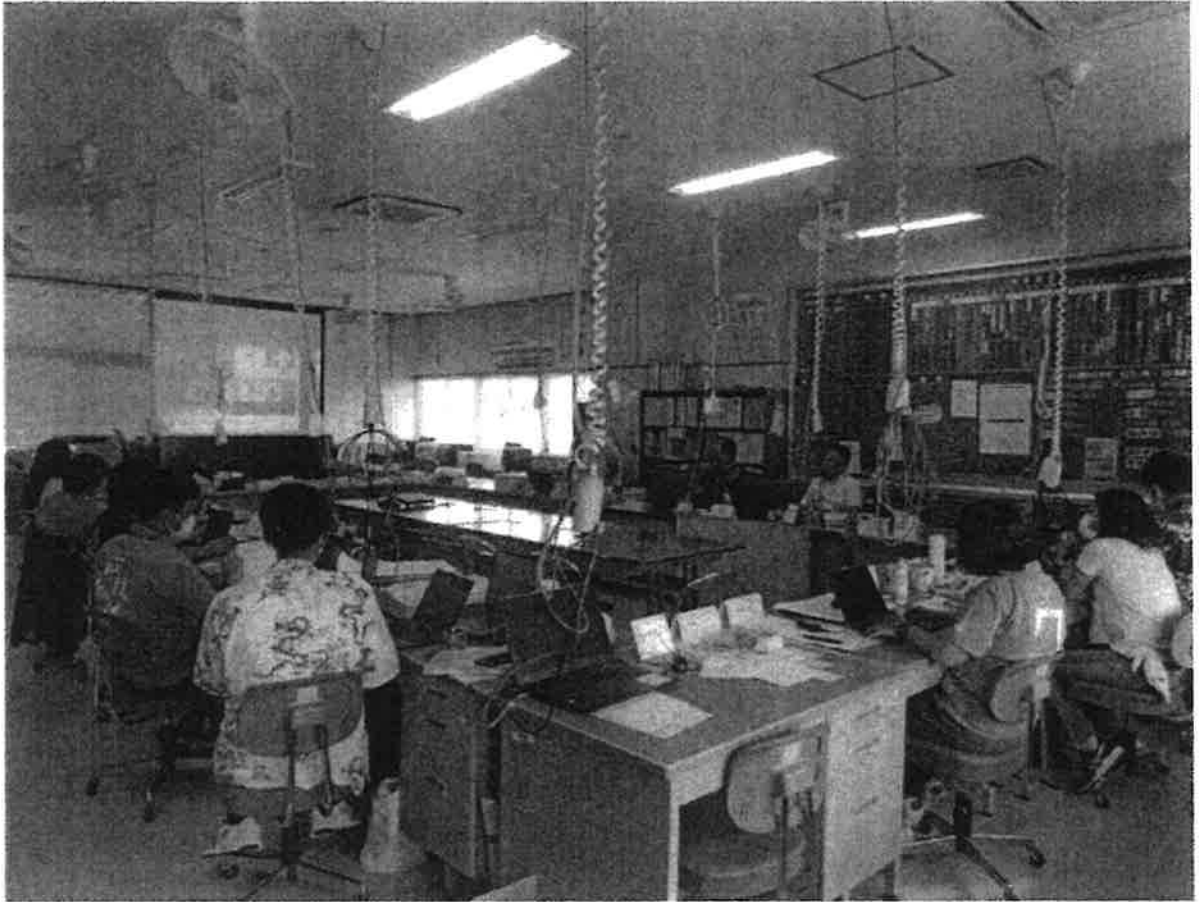


実践項目・内容



【教材研究ノートの作成】  
【板書計画】

- ☆2週間を見通した週案の作成と効果的な活用
- ☆諸調査等の結果分析による課題解決への対応



☆各種会議・研究会の充実

☆こ小中相互の授業参観を促進する。(「学び」の連続性・系統的な指導の充実)  
 ☆全教師が電子黒板等を効果的に活用し、「分かる授業」を展開する。

(2) 学習規律の徹底

- 「聞く態度」の徹底
- 学習用具の準備や片づけ、整理整頓、提出物等の指導の徹底

(3) 校内の共通実践

〈凡事徹底〉

- \*進んであいさつ
- \*人の話をしっかり聞く

〈学習規律の徹底〉

- \*休み時間に次時の準備をする
- \*授業の1分前着席
- \*チャイム時黙想
- \*名前を呼ばれたら返事をする
- \*よい姿勢でしっかり話を聞く
- \*身の周りの整理整頓



(4) 諸調査等の結果分析による課題解決への対応

①各諸調査

- 全国学力・学習状況調査
- 県学力到達度調査
- 学力定着状況調査(学びの確かめ)
- 標準学力調査
- 学校・学級の実態調査・単元テスト

②各種資料の活用

- 学校教育における指導の努力点
- わかる授業 Support Guide
- 学習指導要領及び解説
- 全国学力・学習状況調査報告・授業7行7列
- 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料等

## 支える（発達の支援）

支持的風土のある学校・学級経営を通して発達の支援を充実させる。

- (1) 支持的風土をつくる学級経営の充実
- 児童一人ひとりが楽しく、安心して過ごせる学級づくりに努める。
  - 児童の一人ひとりの頑張りや優しさなど、その子の良さを見とり、認める(価値付け)。
  - 教師と児童の信頼関係や児童相互の温かい人間関係のある学級づくりに努める。
  - 学校生活の諸活動を通して、自分の役割に責任をもって取り組める児童を育てる。
  - Iチェック、なかよしアンケートの等の実施及び分析結果を活用し、よりよい人間関係づくり、学級づくりに努める。
- (2) 生徒指導・教育相談の充実
- 「生徒指導の3つのポイント」が生かされた授業を日常的に実践する。  
(①自己存在感を与える②共感的な人間関係を育てる③自己決定の場や機会を与える)
  - 毎月の生徒指導・特別支援委員会を通して、職員の共通理解を図り、課題解決のための共通実践を行う。
  - 「いじめや不登校への早期発見・早期対応」  
(Iチェック、なかよしアンケート、いじめアンケート、教育相談(年2回)の実施)
  - スクールカウンセラーの活用
- (3) 規範意識・マナーの向上
- 授業終始のあいさつ、返事の習慣化
  - 他人を思いやる心や認め合う心の育成
- (4) 読書活動の充実
- MKB25の取組(量より質への変換・発達段階に応じた図書の推薦)
    - ・国語の教科書で紹介されている図書約70冊を必読書とし、年間25冊(1～4年生)、年間20冊(5～6年生)を目標とする。達成者は学期末に表彰する。

○朝の読書タイム(月曜日:読み聞かせ・木曜日:読書)



【図書委員会の読み聞かせ】



【保護者による読みきかせ】



【先生による読みきかせ】

- 読書月間や読書旬間を設定し、読書意欲を高める。
- 各教科との関連を図り、積極的に図書館を利用する。
- くろしお号巡回を活用し、様々な図書に親しむ。

- (5) 基本的な生活習慣の確立
- 毎月の生活目標の共通実践
  - 「早寝早起き朝ごはん、徒歩登校、適度な運動、家庭学習」の確立
  - 虫歯治癒率の向上
  - ゲストティーチャーを招いた「命の教育」、「性教育」の実施(高学年)
  - 栄養教諭を活用した「食育授業」の実施(全学年)
  - 基礎体力の向上(持久走大会の実施、日常の運動の奨励)



<p>方策4</p>	<p style="text-align: center;"><b>見通す（学校組織マネジメント）</b></p> <p>学校組織マネジメントの機能を高め、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。</p>
<p>実践項目・内容</p>	<p>(1) 教材研究の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 諸調査の結果から、重点指導項目を洗い出し授業改善に生かす。</li> <li>② 担任会を活用し、共同で教材研究を深め、より「分かる授業づくり」に努める。</li> <li>③ 学年（学級）の教材研究の記録ノートを作成する。（研究の足跡を蓄積する）</li> </ul> <p>(2) 学力向上マネジメント（Plan、Do、Check、Action）の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P…今年度の目標設定（総括目標・推進目標）、取組事項の設定、共通理解を図る。</li> <li>・D…計画に基づいて、全校体制による共通実践及び授業改善を進める。</li> <li>・C…取り組みの進捗状況を定期点検する。（フォーカスシート：年3回）</li> <li>・A…課題を共有し新たな改善策を講じる。（授業改善と補習指導）</li> </ul> <p>(3) 日常的な実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語タイム（火、金）朝の10分</li> <li>○じんぶなあタイム（木）放課後の10分、30分</li> <li>○漢字朝会（漢字オリンピック）：年5回実施</li> <li>○縦割り班清掃の充実</li> </ul> <p>(4) 授業マネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□授業開始・終了時刻の徹底</li> <li>□簡潔な説明と的確な指示</li> <li>□身につけさせたい力を踏まえた「めあて」の設定・提示</li> <li>□「めあて」に正対した「まとめ」「ふり返り」の確実な実施</li> <li>□学習のねらいに迫る意図的・計画的な発問</li> <li>□思考を広げ、深める発問</li> <li>□課題について自分自身の考えを持つ時間の確保</li> <li>□学習のねらいの達成に向けた交流場面の設定</li> <li>□授業の展開に生かす評価（児童の学習状況の見取り）</li> <li>□評価基準に基づく評価場面の設定と確実な評価の実施</li> <li>□思考を整理し考えを深める構造的な板書・ノート指導</li> <li>□教具・ICT機器の効果的な活用</li> </ul> <p>(5) 全職員体制による補習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○放課後補習・・・必要に応じて計画的に設定する。（木）放課後の30分</li> </ul> <p>(6) 学力向上推進計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○取組構想、取組計画の中間評価（11月）、年間評価（3月）の実施</li> </ul>
<p>方策5</p>	<p style="text-align: center;"><b>つなぐ（学校連携・地域連携）</b></p> <p style="text-align: center;">「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校連携・地域連携を推進する。</p>
<p>実践項目・内容</p>	<p>(1) 家庭学習の習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習の手引きを配布し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。</li> <li>○「授業と連動した課題」を与え、家庭学習の充実を図る。</li> <li>○家庭学習に保護者のサインをもらう。</li> <li>○5月、10月は、家庭学習強化月間とし家庭学習の習慣化を図る。（計画表の活用）</li> <li>○家庭学習紹介コーナーを設置し、学習への意欲向上を図る。</li> </ul> <p>(2) キャリア教育の視点に基づいた特別活動の充実（学級活動・児童会活動等の充実）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○夢や希望を持たせる取り組みを行い、自己肯定感・自己有用感を向上させる。</li> <li>○当番活動や係活動等において、一人ひとりの働きや活躍を認め合う。</li> <li>○委員会活動において「責任をもって自分の役割を果たす」ことができるようにする。</li> <li>○各種行事における自分の役割を意識させ、その努力や成長を認める。</li> <li>○異年齢交流活動の実施（クラブ活動、縦割り班活動、こども園との交流）。</li> </ul> <p>(3) 地域教育資源を活用した多様な学習活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域学校協働活動推進事業」等を積極的に活用し、体験的な活動を充実させ主体的に学ぶ姿勢を育てる。</li> </ul>